**２０２５年度　授業研究会 　　　■公開授業　（２年）**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　２０２５年６月２４日（火）
授業者：彦根市立南中学校　伊丹賞子

1. **題材名**

　　「○○に見える！使える！」～イメージを広げて～

1. **指導によせて**

本学年の生徒は、１年次に物の形の見方・表し方の基礎を学んでから植物を屏風という形状の中に表現する活動や、植物のスケッチをした経験を生かした表現で客をもてなすための器を陶芸で表す活動などに取り組んできた。また学年末には総合科との教科横断的題材として彦根をＰＲするポスターの制作に取り組んだりもした。ここでは学習支援機器を使って、地域学習のフィールドワークで撮影してきた写真を用いて構想を練る活動にも取り組んだりした。

どの課題においても必ず「主題」を設定する時間を設けるようにしてはきたが、課題の内容を理解

して前向きに取り組むことができる者ばかりではなく、そもそも美術に対する興味が薄く、課題の内

容を理解することに時間がかかる生徒も多いことから、予定した以上に主題設定に時間がかかり、作

品制作の時間が十分に取れないことが課題であった。

２年次では、最初に滋賀次世代文化芸術センターとＭＩＨＯ　ＭＵＳＥＵＭとの連携授業で、「鳥

獣人物戯画」の鑑賞に取り組んでいる。この連携授業では墨を用いた模写体験もプログラムされてお

り、絵巻物に登場する動物たちのユニークな動きを墨で描く経験ができる。これを受けて、模写以外

にもさまざまな技法があることを学習することで「墨で表す」という活動を身近なものに感じさせる

とともに、表現の面白さや自由さに気づかせたいと考える。そして、この技法の学習から生みだした

練習作品を「見立てる」話し合いの時間を設け、自分が表したいものや表現の組み合わせ方のイメー

ジを膨らませることで主題を生み出し、今後の表現活動に主体的に取り組む姿勢を引き出したい。

1. **本時の目標**

・練習作品の表現の「見立て」を行い、技法を用いて表すことができるものを考えたり、話し合いの

中で出た意見を取り入れてイメージを膨らませたりすることができる。

・墨の技法を組み合わせて、主題を生み出すことができる。

1. **評価の観点と規準**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 観点 | 規準 | 評価方法・留意点 |
| 1. 知識・技能
 | 色の濃淡や偶然に生まれたにじみ・軌跡などの形が感情にもたらす効果や造な特徴などをもとに、墨の表現の面白さや美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解している。 | ・活動の様子（生徒観察）・ワークシート |
| 1. 思考・判断・表現力
 | 練習作品の中の色や形が何に見えるかを考えたり、技法の生かし方や組み合わせ方を考えたりしながら表したいものの構想を練っている。 | ・活動の様子（生徒観察）・ワークシート |
| 1. 主体的に取り組む態度
 | 主体的にイメージの見立てを行う活動や主題を生み出す活動に取り組もうとしている。 | ・活動の様子（生徒観察）・ワークシート |

1. **本時の展開**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 活動内容 | 指導上の留意点 | 評価 |
|  | ・机を班の並びにする。・練習作品を準備する。 | ・技法名と作品例を掲示しておく・休み時間に準備しておく |  |
| 導入 | １. 前回までの確認２. 本時のめあてと授業の流れを確認する「見立て」から、表したいものをみつけよう | ・技法名の確認をする。・「見立て」をすることで表現の幅を広げる　ことができることを伝え、活動のイメージ　を持たせる。 |  |
| 展開 | ３. 技法の練習作品の表現の印象を話し合う。・練習作品を机に広げて見せ合う。・作品から受けた印象から、「○○に見える」や「これで○○が表現できそう」などを出し合う。・話しあったイメージを発表する。４. 過去の作品を鑑賞し、どのような表現の工夫があるか意見を出し合う。・気づいた表現の工夫を発表する。５. 技法の生かし方や組み合わせ方、表してみたい表現を考える。・題材にできそうなものや自分の表したいものを考え、話し合う。 | ・技法の数が多いので、見せ合う順番や数の指示をする。・会話が進んでいない活動班には例を示して発想のきっかけとなるような指導を行う。・聞いた意見についてはメモをとるよう伝える。・活動班の数の作品を準備しておく。・前段の話し合いでは出なかった発見や意見を記録しておくように伝える。・「見立て」の中で出てきたイメージや、技法を組み合わせたりすることで、表現の幅が広がることを指導する。 | ①②③ |
| まとめ | ６. 表したいものをワークシートにまとめておく。 | ・ワークシートに記述させる。・制作の中で表したいものを決めることができることも伝えておく。 | ②③ |

1. **準備物**

　　生　徒：教科書、美術資料、ファイル、練習作品

　　指導者：ワークシート、過去の作品、ＰＰＴ、プロジェクター

**■公開授業をふり返って**

授業者：彦根市立南中学校　伊丹賞子

≪成果≫

今年度の研究テーマ「『正解の無い問い』にどのように出会わせているか」を受け、改めて指導の「プロセス」について考え直す機会となった。これまでも墨表現の題材には取り組んできたが、一通りの技法練習を行った後はすぐに表現活動に進んでいた。今回、練習作品を仲間と一緒に見て「見立て」を行う時間を設けたことで、生徒は自分の練習作品の中におもしろい表現があることに気づいたり、友達の作品の中に自分とは違う形や色の表現を見つけたりすることができたように思う。また、過去の作品の鑑賞も、制作の前に見せて教員がその解説を簡単にしてしまうよりは、自分たちの作品の「見立て」の後に行ったことで、どんな技法が使われているかということを興味深げに見ることができていたようであった。この時間の中だけで「描きたいもの」を決めるところまで到達できた生徒は多くはなかったが、自分だけで作りたいもの描きたいものを考えることが難しい生徒にとっては、仲間のつぶやきが発想を広げる機会となったと思う。

　今回取り組んだ「見立て」をしてからの「主題設定」の流れは、技法練習と技法を組み合わせた題材ごとに継続して取り組むようにしていきたい。

≪課題≫

技法の数が多かったために、一枚一枚の作品を「味わう」だけの時間をとることが出来なかったことが残念であった。「何をどう見ればいいか分からない」「どう言ったらいいのかわからない」という班には、「先生ならこの作品は○○に見えるな」とサポートして回る時間が足りなかった。今後は「見立て」がしやすい技法の作品を選択しておいて、見る時間にゆとりを持たせられるようにしたい。事後の授業で他のクラスのおもしろい見立てを先に紹介するようにしたところ、「そういう感じでいいのか」という反応が返ってきた。また、公開授業後の研究協議においては「先に先輩の作品を見せたほうがよい」という意見をいただいた。この授業の「自分の表したいものを見つける」という目的を達成するためには、そのための時間を保証することとともに、展開をどのように組み立てることが有効なのかを、これからも思考錯誤していきたい。